

妊娠期から育児期における家族と子どもの住環境配慮と生活実態  
 ー妊娠期から育児期における家族と子どもの生活環境に関する研究 その1ー

Care of the living planning and living conditions of the family and children in a pregnancy to childcare.

- A study on the living conditions of the family and children in a pregnancy to childcare Part1-

牟田 聡子<sup>1</sup>・八藤後 猛<sup>1</sup>

Satoko Muta<sup>1</sup>・Yatogo Takeshi<sup>1</sup>

This study is to understand the living planning of children and their families from pregnancy to childcare, which is a fundamental study for carrying out the environmental improvement in the future of housing, public facilities and urban planning. Hearing survey and field survey to house conducted, in the results, was to understand the case, such as stumbling and caught of abdomen due to changes body size pregnancy. In addition childcare, we got a finding that housing use and room situation is changing depending on the purpose of consideration of the child's growth and safety and reduce the burden of childcare.

## 1. 背景と目的

近年、わが国では高齢者や障害者のみならず妊婦や子連れ等の子育て世帯にも視点を置いた環境整備が進んでいる。一方、国民生活基礎調査(厚生労働省・平成 25 年)等の調査では核家族世帯が増加し、また地域コミュニティの希薄化している現状もあり、特に母親の育児負担が増加している。本研究では現在、育児をしている母親からのヒアリング及び自宅への訪問調査を行い、育児期だけでなく妊娠期も含めた生活環境の実態把握を行うとともに住宅の不便さ及び住宅の使い方や設えの変化等を抽出することで生活環境の実態を把握し、そこから課題を抽出する。そして今後の本調査への示唆を得ることを目的とする。

## 2. ヒアリング調査

### 2-1. 調査概要

関東地方在住の末子の年齢が 6 歳までの母親に、平成 27 年 1 月 15 日～3 月 31 日に行った。(Table1)

Table1.Overview of interviews practitioner

	A	B	C	D
家族構成	父、母、子			
子の年齢	4 か月 (男)	3 歳 (男)、 6 歳 (女)	2 歳 (男)、 5 歳 (男)	4 か月 (女)、 3 歳 (女)、 6 歳 (女)
現在の 居住形態 (賃貸)	戸建住宅(持家)			
居住年数	2 年	5 年	4 年	4 年
備考	ペット有			

### 2-2. 調査結果

妊娠期は、段差でのつまづきや階段でのすべり、落下等のヒヤリハットを得た(Table 2)。また、妊娠期から育児期の住宅の使い方や設えは、コンセント位

置が高いと使用時にかがむ必要ない等の意見、育児期は就寝場所の移動や、玄関等の危険な場所への侵入防止柵(以下、「ベビーゲート」)の設置等を把握した(Table3)。

Table 2.The incidents case in pregnancy

ヒヤリハット事例		
水回りの段差、まちなかの段差でつまづく	つまづき	
子どもを追いかけて階段を降り、すべってしまった	(自身の)すべり	
手元がすべり食器を落とし、割ってしまった	(物の)落下	
段差の違う階段を把握できず、膝から落下した	(自身の)落下	
駅改札で IC カードが反応せず扉と腹部が衝突した	(物との)衝突	
腹部の大きさを自覚できず、壁や柱、隙間に腹部をはさむ、ぶつける	はさまり	
	ぶつかり	
三人目を妊娠時、足がもつれて転んだ以外特にない	転倒	

Table3.Result of use and room situations of housing in childcare

【育児期】	
気兼ねなく子どもを寝かせられる量の必要性を感じた	床材
床にはマットを敷設	
子どもの様子をうかがえるよう、就寝時も含め 1 階で過ごす	常に子どもの様子 がうかがえる
寝具は布団やマットレス等、落下しても危険の少ない寝具を使用	子どもの安全
階段等の危険箇所や行ってほしくない箇所にはベビーゲートを設置	
音や明るさが気になるようになった	音や明るさ
換気を行う、空気清浄機設置する等、空気環境に配慮	子どもの健康面

### 2-3. 考察

#### ○妊娠期におけるヒヤリハット

ヒヤリハットの事例として「つまづき」、「(自身の)すべり」、「(物の)落下」、「(自身の)落下」、「(人との)衝突」「はさまり」、歩行者との、食器を落とす「(手に持った物の)落下」等のヒヤリハットを抽出した。特に「(手に持った物の)落下」は「落下

による物の破損によってけがをする」という二次的  
事故であり、今まで着目されていない。

また、段差はまたぎ段差と単純段差ではヒヤリハ  
ットの事例が異なる。またぎ段差が主となる水回り  
やバルコニーの段差は「つまずき」、単純段差であ  
る階段や玄関等は「(自身の) 落下」となる。

### ○妊娠期から育児期の住宅の使い方, 設え

妊娠期は住宅の身体変化に合わせて使い方や設え  
を変化させたという結果は得られなかった。一方、妊  
娠期は妊娠前と同じ住環境の中で生活しており、身  
体的負担が発生しやすい環境にいることがわかる。

育児期は子どもの成長に合わせ生活空間を移動す  
る、子どもの安全を考慮し使用する家具等を変化さ  
せている。例えば、夫婦のみの場合、就寝時は寝室を  
利用していたが、出産後は1階に移動している。他に、  
フローリングにはウレタンマットを敷設する、畳の  
必要性を感じるという床面への配慮がされている。

## 3. 訪問調査

### 3-1. 調査概要

ヒアリング調査を行った4名のうち、承諾の取れ  
たA宅を平成27年1月15日(子の月齢4か月)と  
4月18日(子の月齢7か月)に訪問した。(Table 4)

Table4. Overview of A's home

A宅の概要	
所在地	東京都A市
間取り	1LDK
面積	約62㎡
家族構成	父、母、子
居住年数	2年
備考	ペット共生住宅 (ペット:猫 1匹)



### 3-2. 調査結果

- ・沐浴は、浴槽のふたの上に設置したベビーバスに  
て行う。着替えは洗濯機上に準備しておいたタオル  
で子どもをくるみ、別室のベッド上で着替えを行う。
- ・1回目訪問時、リビングの床には絨毯が敷かれて  
いた。2回目訪問時はウレタンマットに変更され、子  
どもの空間がつくられていた
- ・寝室はリビングわきの室を使用。
- ・浴室前のまたぎ段差高は95mm, 幅90mm。
- ・リビングとベランダ間のまたぎ段差は高さ115mm,  
幅135mm。

- ・ベランダにある物干し竿は手すり柵位置(床面高  
1370mm)に設置されるタイプのもの。

- ・コンセントは床面から上端まで1170mm。

### 3-3. 考察

ベランダとリビング間のまたぎ段差は、腹部が出  
て足元が確認しにくい妊娠期には危険であり、ヒヤ  
リハットの要因になると考えられる。また、妊娠期は  
腕の上げ下ろし動作が困難になる。よって、物干し竿  
が手すり柵位置にあることは洗濯を干す際の身体的  
負担を軽減する。また、妊娠期はかがみ・しゃがみ動  
作も困難になる。コンセント位置が高いと使用時に  
その動作は必要なく身体的負担を軽減している。

沐浴時は育児負担の軽減を考慮した方法で行われ  
ていたが、その結果、危険な沐浴方法となっている。  
このような方法を軽減するため、特に育児期におけ  
る洗面所の設えとして子どもを寝かせることができ  
る広さの空間が必要である。他に、寝室とリビングが  
近接していると、子どもの昼寝時、自身も休憩しなが  
ら様子が見られ、都合が良いという意見も把握した。  
家事をしながら子どもの様子が見えがえる住宅設計  
は実際の現場でも見受けられるが、家事をしていな  
い時でもどのような配慮をすれば安全・安心で育児  
のしやすい住環境となるか、にも着目すべきである。

## 4. 今後の展開

今後は収集したデータよりアンケートを作成し、  
妊婦や育児期の親に行いより詳細な分析を行う。

## 5. 参考・引用文献

- [1]横井健他: 育児の観点からの建築物内各部位の安  
全性の評価方法に関する基礎的研究その1-育児  
中の事故事例の調査および育児特有の姿勢による  
動作変化の確認実験概要, 日本建築学会大会学術  
講演会梗概集, 2011, 715-716, 2011年7月
- [2]入澤敦子他: 子育て期の家族空間の設計要件-子  
育て家族の住まい方調査(5), 日本建築学会学術講  
演梗概集, 2010, 207-208, 2010年7月
- [3]関東 舞他: 妊婦の日常生活困難動作からみた生  
活環境整備に関する基礎的研究, 日本建築学会学  
術講演梗概集, 2004, 893-894, 2004年7月31日